

令和3年度 第17回春の全国中学生ハンドボール選手権大会安全対策

大会実行委員会

1 大会時の保険について

- ①出場チームは、傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入すること。
- ②大会役員、競技役員、生徒役員の傷害については、大会期間中、傷害保険に加入し対応する。

2 救急対策について

- ①大会期間中、試合会場に整形外科医を配置するほか、保健師または看護師、養護教諭及び接骨院医師を配置する。
- ②会場にAED（自動体外式除細動器）が設置されていることを確認し、大会運営者に複数のAED取扱講習会受講者を配置して不測の事態に備える。
- ③緊急搬送用車両の手配をする。
- ④大会期間中、下記の病院を救急病院として指定する。

| 医療機関名 | 所在地 | 電話番号 | 診療科目 |
|--------------|-----------|--------------|------|
| 金沢医科大学氷見市民病院 | 氷見市鞍川1130 | 0766-74-1900 | 総合 |

3 緊急避難対策について

地震等の災害に対する避難経路、避難場所を明示して安全を最優先する。

4 公衆衛生対策

大会前

- ①宿泊施設業者及び食品販売テナント業者名の届け→高岡厚生センター氷見支所
- ②宿泊施設業者及び食品販売テナント業者従業員の検便実施
- ③宿泊施設業者及び食品販売テナント業者対象の公衆衛生講習会実施
- ④消毒薬、中和剤の配置（体育施設）

5 公衆衛生啓発パンフ、チラシの配布（参加チーム、宿泊施設業者及び食品販売テナント業者）

大会時

- ①新型コロナウイルス感染症拡大防止について、主催者側ガイドラインに沿って行う。
- ②選手の健康状態聞き取り調査
- ③トイレ、洗面所の定期巡回点検及び張り紙等による注意喚起
- ④医師及び養護教諭等の配置
- ⑤市内及び近隣市町村病院（主に高岡市）との連携
- ⑥高岡厚生センター氷見支所との連携

令和3年度第17回春の全国中学生ハンドボール選手権大会 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について（ガイドライン）

2022年2月2日

本大会は、コロナ禍の中、本感染症対策ガイドラインに沿って実施します。

参加チームには、発熱の有無を含めた症状の確認と有症状者への適切な対応を強く要望します。

本ガイドラインは、日本スポーツ協会が作成した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び（公財）日本ハンドボール協会が定める「～選手・役員・関係団体のためのガイドライン～」を基に、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。

現在、新規感染者拡大に対する警戒が必要であることから、本大会に於いては来会者全ての生命・健康の安全を最優先とし、感染症拡大を最大限に排除するものです。

今後の知見の集積および感染症拡大状況によって、見直すことがあり得ますので御留意ください。

当初50名の入館としていましたが、現在、新規感染者数が急速に増加し市中感染が拡大していることを鑑み、入館人数の変更を検討しています。

1 大会について

①開会式<アトラクション含>は【不実施】とする。

代表者会議に合わせ開始式を行う。

※出場男女各チームより、役員1名のみ出席してください。選手およびその他役員の入館は禁止といたします。

②練習会場割当ては【不実施】とする。

③交流試合は【不実施】とする。

④入場制限をかけ一般観覧者の入館を禁止とし【無観客】とする。

⑤チーム関係者（登録外選手および保護者等（応援者））1チームにつき●●名までの入館を【許可】する。

⑥大会の試合日程について、女子試合を先行し、後に男子試合を行う。

2 大会参加時の申合せ事項について

①出場男女各チーム登録選手および登録外選手と、その保護者が本感染症拡大防止対策を確認し、チーム責任者は同意を得ていることを大会参加同意書（別紙）にて確認すること。また、感染の不安から参加を希望しないチーム登録選手および登録外選手については、無理に参加をさせてはならない。

②選手が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること。

ア.体調がよくない場合

イ.同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

ウ.過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

③大会前の健康管理について、昨年同様2週間分とし個人の体調を記録用紙（各チーム様式）に記録し、健康管理を徹底してください。なお、体調不安（疑似）を感じる者は身近な医療機関に相談しPCR検査等を活用すること。

④大会前に37.5度以上の発熱、咳、鼻汁、咽頭痛、頭痛、倦怠感等などの風邪の症状および味覚嗅覚障害を感じるなどの症状があった場合には COVID-19 と診断されているか否かに関わらず次の A.および B.の両方の条件または、Cの要件を満たしている場合のみ大会への参加が可能です。

A. 感染を疑う症状の発症後に8日以上経過している。（発症日を第0日として第8日目以降である）

- B. 解熱剤等の薬剤を服用していない状態で、3日間症状が全くない。(解熱・症状消失日を第0日として第3日目以降である)
- C. 薬剤を服用しない状態で感染疑い症状が消失し、COVID-19の感染のリスクが低いことを示す医師の診断書がある場合。(この場合も、その状態を示すためPCR検査受検を推奨します)
- ⑤大会前にCOVID-19と診断された、もしくはCOVID-19患者の濃厚接触者となった者は、大会参加72時間以上前までに完全に症状が消失していることに加えて、感染性がないもしくはすでに消失している旨の医師の診断書がなければ大会には参加できません。
- ⑥チーム内にCOVID-19患者が確認された時には所轄の保健所の指示確認を必ず受けてください。またその際には大会に参加する前にチーム内に濃厚接触者とされる者がいるかどうかを必ず確認してください。濃厚接触者がいる場合には前項の規定にしたがってください。チーム内に患者が発生しても保健所の確認の結果濃厚接触者ではないと判断された場合にはその者は参加可能です。
- ⑦大会7日前以降にCOVID-19と診断された、もしくはCOVID-19患者の濃厚接触者となった者は大会に参加できません。
- ⑧マスクを持参すること。(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際には必ずマスクを着用すること)
- ⑨こまめな手洗い、アルコール消毒液等による手指消毒を実施すること。
- ⑩他の参加者、運営スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること。
- ⑪大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- ⑫感染防止のために主催者(本部)が決めたその他の措置の遵守、主催者(本部)の指示に従うこと。
- ⑬出場男女各チームは登録選手15名・役員4名(生徒役員含)以内とし、登録外選手はチーム関係者(登録外選手および保護者等(応援者))とし、登録外選手については、ウォームアップの参加は認めない。
- ⑭大会終了後7日以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

3 出場チームおよびチーム関係者(登録外選手および保護者等(応援者))への対応(主催者)

①入館時体調の確認

健康状態と連絡先などが明記されているチェックシートを参加日ごとに当該試合会場受付に提出し入館すること。

ア. 氏名、年齢、住所、連絡先(電話番号) ※個人情報の取扱いに十分注意する。

イ. 各日(試合参加当日)の体温

ウ. 各日における以下の事項の有無

- ・平熱を超える発熱(概ね37.5度以上)
- ・咳(せき)、咽頭痛など風邪の症状や嗅覚や味覚の異常
- ・だるさ、倦怠感、息苦しい(呼吸困難)、疲れやすい等
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触
- ・同居家族や身近な知人に感染の疑いがある方
- ・過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要な国、地域等への渡航や当該在住者との濃厚接触があった方

※出場チームおよびチーム関係者(登録外選手および保護者等(応援者))には、事前(チーム宛)に初戦分をご案内いたします。また、勝者のチームおよびチーム関係者(登録外選手および保護者等(応援者))は、退館時に翌日分を各会場受付にて受取ってください。

チェックシートについては、本大会終了後に参加者から新型コロナウイルス感染の報告を受けた場合に必要となる拡大予防対策措置のためであり、その目的の達成に必要な範囲内で使用します。

なお、主催者側で1か月程度保管し、その後は破棄します。

②入館時に必ずマスクを着用し、AI体温検知カメラにて検温すること。また、会場内では「3密」の回避、人と人との距離の確保、こまめな手洗、アルコール等による手指消毒等を徹底すること。

③他チームとの接触を避けるため、チームの入館について時間制限を設ける。

また、チームとチーム関係者（登録外選手および保護者等（応援者））の入場口を別に設ける。

【チーム入場について】

・各日第1試合目については、開館時刻8：00より入館とする。

・各日第2試合目以降のチームについては、前試合ハーフタイムの20分前からの入館とする（前試合開始5分後）※チームでまとまって入館してください。

④チーム関係者（登録外選手および保護者等（応援者））入場について

■チーム関係者（登録外選手および保護者等（応援者））のご協力願い

各チーム関係者は、当該試合終了後、固定席（自席）の消毒（立見席不要）についてご協力をお願いいたします。（除菌シートは常置してありますので、役員の指示に従いご使用ください）

※消毒終了後、速やかに退館してください。

※チーム関係者（応援者）に周知してください。

⑤チーム関係者（登録外選手および保護者等（応援者））について、当該試合開始予定時刻の10分前からの入館とし、コートごとに応援者席（主催者側誘導）を設定しています。応援者席においてソーシャルディスタンス（できるだけ2m、最低1m）を遵守し、必ずマスクを着用し大きな声を出しての応援はしない。（鳴物禁止）

⑥チーム関係者（登録外選手および保護者等（応援者））に対し、事前（チーム宛）にIDカード人数分をご案内いたします。当該試合のみ身につけ入館してください。

なお、当該試合中に一旦退出する時は受付にて再入場証を受取り、入場時に提出してください。

⑦大会参加前後の留意事項

ア. 大会の前後のミーティング等においても、「3密」を避けること

イ. 会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮すること

ウ. 感染リスクの高い場所への出入りや感染拡大が確認された地域へ遠征等を控えること

⑧移動に関しては貸切バスを使用することが望ましい。

4 競技上の留意点（選手・チーム役員、トレーナ、競技役員）

■チームのご協力願い

各チーム当該試合において、前後半終了時にベンチ消毒のご協力をお願いいたします。

（除菌シートは常置してありますので、役員の指示に従いご使用ください）

※後半消毒終了後、着替えを済ませ速やかに退館するよう心がけてください。

①十分な距離の確保

ア. 運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること

イ. 選手以外の役員等はマスクを着用すること

②選手更衣室は、他チームとの接触を避けるためチームごとに用意いたします。また、試合前のユニホーム着替えは、前試合ハーフタイムのウオームアップが終了してから行ってください。

※消毒作業の都合により、短時間での利用を心がけてください。

③ウオームアップを行う場合は、「3密」を回避し大きな声を出さないようにする。

- ④試合開始および終了後に、選手同士で素手でハイタッチや握手・抱擁等は行わない。
- ⑤競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については妨げないが、プレー中断時などは、相手との距離や飛沫を考慮し、一程度の距離を保つことや向き合わないなどの工夫をする。
また、ベンチにおいても、得点のたびに立ち上がって大声をあげたり、叫んだりしないこと。
- ⑥タオルの共用はしないこと。
- ⑦スクイズボトル等の飲料の回し飲みはしないこと。
- ⑧身体接触を伴う競技特性を理解し、ハーフタイムや競技終了後に洗顔、うがい、手洗い、手指消毒をするなど、感染防止に努めること。
- ⑨チーム役員からの指示などの際は、選手との距離（できるだけ 2m、最低 1m）を意識する。またチーム役員はマスクの着用を心がける。
- ⑩競技中について以下の項目を厳守すること。
- ・素手でハイタッチや握手等は控える
 - ・手を舐める行為を行わない
 - ・円陣を行う際の声出しは、可能な限り選手同士の間隔を取り、最短時間で済ませる
 - ・競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については妨げないが、プレー中断時などは、相手との距離や飛沫を考慮し、一程度の距離を保つことや、向き合わないなどの工夫をする
 - ・手指衛生に努めた上、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については可能な限り消毒を行う
 - ・交代選手等が控える場所では、可能な限り、マスクを着用するとともに、選手らの間隔を取り、接触を避けるなお、競技特性上、選手交代が目まぐるしく行われるので、交代選手にとっては、その限りではない
 - ・監督（指導者）からの指示などの際は、選手との距離（できるだけ 2m、最低 1m）を意識する。
また、監督、コーチなどチーム役員はマスクを着用しなければならない
 - ・ハーフタイムや競技終了後に、ロッカー（更衣）室等に引き上げる場合は、動線が混雑しないよう努める
- ⑪鼻水、唾液などが付いたゴミは、チームおよび個人が準備した袋に入れ、密閉状態に縛ったうえで持ち帰ること。

5 選手が遵守すべき事項

- ①以下の事項に該当する場合は、顧問が責任をもって参加を見合わせる。（大会当日に書面（チェックシート）で確認を行う）
- ア. 体調がよくない場合（例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - イ. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ. 過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
 - エ. マスクを持参すること
- ※参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際には必ずマスクを着用すること
- オ. こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
 - カ. 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2 m以上）を確保すること
 - キ. 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと
 - ク. 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと
 - ケ. 大会終了後7日以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること
 - コ. 大会の前後のミーティングにおいても、「3密」を避けること

- ②上記事項の遵守ができないまたは再三の注意勧告に従わない場合、提出書類等の内容に隠蔽・虚偽が発覚した場合には、当該チームに対して大会への参加及び試合への出場を禁止する。

6 選手・チーム役員に感染が判明した場合の対応

①大会前

- ア. 大会前当該部員、顧問、濃厚接触者と特定された者の出場は認めない
- イ. 代表者会議までの選手・役員の変更を認める

②大会期間中（出場辞退に関して）

大会に関わる全ての者は、必ず当日の朝検温を行い、また会場入口でも検温を行う。37.5度以上ある場合や体調不良者について以下のように取り扱うこととする。

- ア. チームの中に37.5度以上ある選手・役員は入館できない
 - ・ 出場チームに感染疑いが生じ、安全性の確認が間に合わない場合には、出場辞退を勧告する。または参加資格を取り消す
 - ・ 出場チーム（対戦相手チームの場合も含む）に濃厚接触者や感染疑いが生じた場合には、出場辞退を勧告する。または参加資格を取り消す。
- イ. 体調不良者に該当する選手や役員が生じた場合は症状等の把握を大会感染症対策本部で協議し、大会への出場の有無を決定する

* 「体調不良者」とは、以下の目安に該当する方と考えられます（厚生労働省発表）

- ・ 息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、高熱などの強い症状のいずれかがある場合
- ・ 重症化しやすい方（高齢者や基礎疾患がある人）で、発熱やせきなどの比較的軽い風邪症状がある場合
- ・ 比較的軽い風邪が続く

- ウ. 対戦チームに陽性者の疑いや陽性者が出た場合や対戦済みの相手（敗退したチーム）に感染疑いが発覚した場合、次戦がある当該チームに対して棄権を指示（勧告）できる
- エ. 濃厚接触者の認定については、通常当該地域の保健所が行うことになるが、感染状況によっては、判断が遅くなることが考慮されるので、大会感染症対策本部にて、濃厚接触者疑いとすることができる。その判断は、陽性者とマスク無しで、2m以内の距離で10分以上会話した者を基準とする
- オ. 試合の成立・不成立

陽性者、濃厚接触者、体調不良者の判明により辞退しなければならなくなった場合、原則として試合は対戦チームを不戦勝（10-0）とする。

- カ. 大会中止に至る状況に該当した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある
 - ・ 政府による緊急事態宣言が再発令された開催地自治体ならびに近隣都道府県で感染症が拡大し、開催地県へ県外からの往来が拒否された場合
 - ・ 大会期間中に複数の参加チームに集団感染（クラスター5人以上）の発生が確認された場合、大会感染症対策本部に於いて、開催継続の有無について協議をする。

③大会後

- ア. 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従うこと
- イ. 本実行委員会は、速やかに報告書を作成し、感染者が参加した大会当日に会場内にいた全ての者に連絡をすること

④チーム内に感染者が出た場合はそれ以上に集団感染（クラスター5人以上）・感染症拡大を起こさないことや、選手やチームを不当に扱うことはせず、起因する一切の差別や誹謗中傷を絶対に生み出してはならないことについて、大会に参加するすべての者が自覚し協力するものとする。

7 審判員、競技役員などの行動管理

①入館時体調の確認

健康状態と連絡先などが明記されているチェックシートを参加日ごとに当該試合会場受付に提出し入館すること。

ア. 氏名、年齢、住所、連絡先（電話番号） ※個人情報の取扱いに十分注意する。

イ. 各日（試合参加当日）の体温

ウ. 各日における以下の事項の有無

- ・平熱を超える発熱（概ね37.5度以上）
- ・咳（せき）、咽頭痛など風邪の症状や嗅覚や味覚の異常
- ・だるさ、倦怠感、息苦しい（呼吸困難）、疲れやすい等
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触
- ・同居家族や身近な知人に感染の疑いがある方
- ・過去7日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間が必要な国、地域等への渡航や当該在住者との濃厚接触があった方

チェックシートについては、本大会終了後に参加者から新型コロナウイルス感染の報告を受けた場合に必要となる拡大予防対策措置のためであり、その目的の達成に必要な範囲内で使用します。

なお、主催者側で1か月程度保管し、その後は破棄します。

②マスクを持参すること。（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）。

③こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。

④他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上、最低1m）を確保すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。）

⑤大会中のレフェリーミーティングは書面またはメールなどにより情報共有する。更衣室内では15分以上にならないよう留意すること。

⑥レフェリーについては以下の注意をすること。

- ・控え室は密を避けるため、当該試合と次の試合の2ペアのみが使用し、他のレフェリーは競技会場内の指定された席で待機する。
- ・選手、チーム役員・競技役員との握手やハイタッチ等は行わない。エアタッチや会釈で済ませる
- ・通信機器等を使い回すときは、必ずウイルス除去機能のあるウェットタオル等を使用する

⑦テーブル役員については以下の注意をすること。

- ・必要最小限の人員で対応（TD2、SK、TKの4名）
- ・握手等はレフェリーと同様行わない
- ・筆記用具等は、個人のもので持参するが、用意されたものを使用する場合は必ず使用後消毒を行うこと。テクニカルオフィシャルはストップウォッチ、ホイッスルも持参したものを使用。テーブルの笛は、電子ホイッスル、ホーンが望ましい
- ・テーブルに置く機材（筆記用具なども含む）は試合ごとに消毒すること

⑧館内では、発行されたIDカードを、常に身につけておくこと。

⑨選手に感染者が発生した時の当該試合を担当した審判員については、マスクの着用はないものの概ね2m以上の距離を取っていること、15分など長時間に及ぶ会話もしていないことから、濃厚接触者疑いとは判断しない。また、ジャッジズテーブル担当者については、マスクを着用しており、濃厚接触者疑いとは判断しない。ただし、保健所からの指示があれば従うとともに、毎日の健康チェックは怠らず、不調があればすぐに届け出るものとして、感染拡大防止に努めること。

- ⑩大会終了後7日以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

8 移動と宿泊について

- ①公共交通機関を利用する場合は、感染予防の観点から、移動中のマスクの着用、手指衛生の徹底、必要以上の会話や飲食は避け、さらに可能な限りお互い距離を取りつつ座席をまとまって搭乗、乗車し、極力他の利用者との接触を避けること。
- ②チーム専用の移動手段を手配することが望ましい。貸し切りバスでの移動については、車内の消毒、運転手の体調管理、車内換気など、バス会社との連携をとること。選手・役員は車内でのマスクの着用、飲食時の会話の禁止など、感染防止に努めること。
- ③宿泊先の各所でも手指消毒を行うこと、またエレベーター、浴場などにおいて三密の状態にならないように注意すること。
- ④宿泊はホテルの場合、1名1室利用とすること。旅館タイプの場合には定員の2分の1以下の人数とすること（ただし詳細は各施設の事情による）。
- ⑤食事でもできるだけ一般宿泊者とは別室でできるように宿舍と連携すること。また、食事時の会話やお互いの距離、ビュッフェ形式の場合のとりわけ方法など十分に留意すること。飲食を伴う食事は厳に慎むこと。（外食する場合も同様とする）。
- ⑥宿舍共用部（例：エントランスやワークスルームなど）では、混雑が起これないように譲り合って使用するとともに、人数制限など宿舍からの指示等に従う。
- ⑦チームのミーティングなどは、ビデオ会議（オンラインミーティング）を活用し、選手らの接触を、極力避ける。対面で実施する場合は、部屋の広さ（参加者間ができるだけ2m、最低1m）や換気し、「3密」の状態とならないようにする。
- ⑧選手の治療やコンディショニングに際しては、多数が一度に集まらないように工夫し、部屋の換気を繰り返す。マスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとった上で対応する。また、環境や使用する器具等の消毒を行う。
- ⑨体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）を訴える者が出た場合は、即座に個室に隔離し、チーム役員（帯同スポーツドクター等）に相談の上、必要と判断されれば医療機関を受診させること。COVID-19を疑う症状を訴える者は全て大会に参加はできない。
- ⑩風呂を利用する際は、「3密」を防ぎ、個々人の利用時間を短くし、速やかに退室するように心がける。

9 その他

- ①会場への移動等は各学校で責任をもって集団感染のリスク（「3密」の条件）を避けること。
- ②試合終了後（20分以内）は速やかに退館すること。試合観戦は認めない。
- ③大会参加者は、大会の成功を担う一員であることを自覚し、全ての大会参加者を新型コロナウイルスの感染から守るため、自らの体調管理及び会場内外での行動に最大限の注意を払うこと。
- ④大会参加者は、大会参加日の7日前の時点から会場地を出るまでの間、多数が集まるイベント（大会の開催式・表彰式及び競技会は除く）や会食を原則避け、各自で感染リスクを抑える行動をとること。
これは選手を取り巻く保護者、役員も同様で、参加する選手のためにも協力を惜しまないこと。
- ⑤大会参加者は、罹患時の重症化リスク等を軽減する効果が見込まれるため、大会参加14日前までにワクチンを接種することが望ましい。
- ⑥今後、社会情勢が大きく変化し、通常の世界生活に戻るなどした場合の対応は、上記の限りではない。

- ⑦コロナ感染症に関する事項はすべて「大会感染症対策本部（日本ハンドボール協会・競技正副委員長・総務正副委員長・審判正副長・中学生専門委員長・事務局とする）」で協議し、決定する。
※現場での判断等困難な場合には、日本ハンドボール協会医事専門委員会危機対策メンバーに相談することとする。
- ⑧消毒について、随所に消毒剤（手指）を設置し、選手更衣室・各控室（机）・ドアノブ・手摺り・トイレ水洗レバー等についてはこまめに行い、試合コートについてはオフィシャル席（得点操作盤等含む）・モップ等を全て主催者側が行う。
- ⑨換気について、試合コートではハーフタイム（10分）および試合間（20分）で行い、各控室においても定期的に行う。
- ⑩全ての者は、鼻水、唾液などが付いたゴミについて、個人が準備した袋に入れ、密閉状態に縛ったうえで持ち帰ること。
- ⑪飲食について、チームバス内および宿舎等をお願いします。
- ⑫報道機関の取材は各会場に設置してあるプレスエリアで行います。報道機関がそのエリアで待機していましたが対応してください。取材後は速やかに退出してください（屋外での取材は制限ありません。）

今後の新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては、変更および開催中止の場合もある。

（公財）日本ハンドボール協会 医事委員会及び競技本部監修のもと作成したものである。

以上

春の全国中学生ハンドボール選手権大会
氷見市実行委員会